

令和5年度 学校関係者評価委員会 報告書

泉佐野泉南医師会看護専門学校

【日時】

令和5年11月2日（木曜日） 17:30～19:00

【委員】*敬称略・順不同

- 赤木 功 (学校関係者評価委員長 特定非営利活動法人 NAC 理事)
- 井出 由起子 (地方独立行政法人りんくう総合医療センター 副病院長兼看護局長)
- 濱田 眞由美 (社会医療法人生長会 専門学校 ベルランド看護助産大学校 副学校長)
- 山本 好男 (大阪府立日根野高等学校 校長)
- 田平 昌代 (泉佐野市役所 健康福祉部 健康都市推進担当 理事)
- 南 智子 (IS 太陽 会長)

【重点目標の評価】

I. 教育内容の発展と強化

- I-1 新カリキュラム導入2年目の達成と課題の明確化
- I-2 地域との連携強化
- I-3 関連病院・施設との連携強化

1-1 取り組み	<p>コンセプト科目では、専任教員が科目をデザインし、学生がコンセプトをより理解するための教材として講師依頼をする。それにより授業テーマの依頼がより具体的となり、講師は事例を通して看護実践を語る授業をしてくれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子教科書を用いた反転授業、アクティブラーニングを増加した。 ・電子教材（電子カルテ教材 Medi-eye, 国家試験対策医学書院 web）を活用している。 ・Google クラウドスルームを用いた資料配信、動画、レポート提出、フォームテストなど ・動画による技術チェック ・オンライン・ハイブリッド授業：(例：国際看護のライブ授業、泉州地域健康論：遠隔にいる講師とつないだディスカッション、臨地実習のカンファレンス など)
結果	<p>新カリキュラムの学生から GPA が低下しているが、成績評価が4→5段階に変更された影響が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムになって、1年次に学業不振を理由とする退学・休学を選択する学生が3名いるが、その理由は「思考する課題が難しい」というものである。コンセプト科目では思考（知識の活用）が求められるため、知識重視の学習から転換できない学生は進級が困難である。 ・反転授業、アクティブラーニングによる学生の課題に費やす自主学習時間が増加している。
1-2 取り組み	<p>新カリキュラムでは、3市3町内の様々な地域活動の場を「看護学生の学びの場」と位置づけ、地域調査や管内で行われる研修会、地域ボランティア活動など様々な形で参加している。令和5年度の「泉州地域健康論」では、基幹包括いずみさの、泉佐野市福祉委員会と協力し、地域の現状を知ること、現状を教えていただく対話を通じた看護実践について考える取り組みを開始した。</p>
1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との相互活動が増え、連携が強化されている。また、活動内容について 様々な

結果	<p>媒体で注目されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「泉州地域学」で講師として来てくださった講師との連携により、令和5年度に対面で復活した学校祭に地域の方が出店してくださっている。地域で暮らす者として、このような交流を通じた地域産業を応援する姿勢の大切さが学生に伝わっている。 ・地域のリソースとして、専任教員の活動の場が広がっている。
1-3 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度はコンセプト型カリキュラムに関する合同学習会・指導者会議を2回開催した。11月以降も、新カリキュラムに関する実習（基礎看護学実習Ⅰ-②、成人・老年看護学実習Ⅰ：健康を守る、成人・老年看護学実習Ⅱ：臨床判断の実践）について合同指導者会議を開催予定。 ・関連病院・施設には、コンセプト科目の「教材としての講師」について協力いただき、適切な講師を選定していただいている。科目責任者である専任教員が、直接、講師と講義内容の調整を行っている。 ・産学連携事業として、卒業前技術演習を令和5年3月に行った。 ・卒業生の演習アシスタント、模擬患者役制度を整備した。 ・IS太陽（同窓会）で、学校活動に参加した会員への応援金制度が整備された。 ・「コンセプトカリキュラムの実装」を日本看護学校協議会第33回学術集会で発表した。
1-3 結果	<p>合同学習会・指導者会議では、すべての関連病院・施設の実習指導者にご参加いただき、コンセプトで患者を理解するという新しい学び方や、心理的安全を確保した上での指導方法を共有することができた。これは、心理的安全をテーマにした看護教育への投稿にもつながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携事業では、演習指導を行った看護師のモチベーションにつながったという意見をいただいている。令和6年3月にも継続予定である。
質疑応答	なし

II. 受験生の確保

II-1 リクルート活動強化

II-2 対外的な宣伝・学校のブランド化

取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ①オープンキャンパス ②高校訪問、出前授業など ③対外的な宣伝・学校のブランド化
結果	<ul style="list-style-type: none"> ①オープンキャンパス 対面1回、オンライン2回 ②高校訪問や出前授業 計14回出張 ③対外的な宣伝・学校のブランド化 <ul style="list-style-type: none"> 1) 講演会開催：9月19日（月）「アンガーマネジメント」参加者45名（実習関連施設、講師が参加） 2) 学校祭で地元企業と連携：10月28日（土）地元企業のキッチンカー4店舗出店 3) 雑誌投稿 <p>●令和5年3月 厚生労働省 令和4年度看護職員確保対策特別事業 看護基礎教育における地域住民と連携した教育事例収集事業地域は教育の宝物！地域</p>

	<p>と学校がともに作る連携教育展開の手引き 「泉州で活躍する 7 人のプロフェッショナルから学ぶ「泉州地域学」～地域を支える人から地域の誇りを学ぶ</p> <p>●令和 5 年 8 月 ナーシンググラフィカ創刊 20 周年記念 グラフィカ week 「教育機関と地域との新たな交流の可能性を考える」「ボランティア活動を通しての地域との交流と地域貢献」</p> <p>●令和 5 年 10 月 医学書院 看護教育 第 64 卷 第 5 号、「心理的安全性の高い組織をめざして 組織の自主運営化へのチャレンジ」を教職員一同で執筆</p> <p>4) 学校のブランド化</p> <p>●IS ロゴ入りサブバッグ、T シャツ・ポロシャツの作成</p> <p>●泉州地域学 学生デザインのタオル作成</p> <p>●オリジナルクリアファイルの作成</p> <p>●HP・インスタグラムの投稿</p>
質疑応答・コメント	<p>卒業生が学校に看護師以外の資格を活かして、地域貢献できるのではないかと。今回の文化祭もサンキャッチャー作りで参加できた。今後も卒業生が学校祭などで地域貢献できるように促していきたい。</p>

Ⅲ.組織運営の改善

Ⅲ-1 Change Program 導入にて自主運営型組織への発展

Ⅲ-2 教職員の有給休暇消化率の向上

Ⅲ-3 財政状況の安定維持

取り組み	<p>・新カリキュラム導入、オンライン化、コロナ禍での対応など様々な状況の変化に対応するためには、教職員組織の相互支援のある環境を維持しながら、仕事内容や分担、システムの見直しを図っていく必要があると考えた。</p> <p>①組織改革 Change Program 研修（オフィスマールス 出口郁子講師）の実施 →スタイルミーティング：、3月、6月、8月、11月、「信頼」「happiness」「心理的安全性」「情報の透明化」について話し合い、誰もが働きやすい組織づくりに取り組み中である。</p> <p>②職員の happiness 度を上げるための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日の学生対応に関する待遇改善 ・情報の透明化委員会の発足：指導記録の改善 <p>③雑誌への投稿：令和 5 年 10 月 医学書院 看護教育 第 64 卷 第 5 号 「心理的安全性の高い組織をめざして 組織の自主運営化へのチャレンジ」を教職員一同で執筆</p>
結果	<p>・組織改革研修は、事務を含む教職員全員で話し合っており、情報共有、相互理解が深まっている。職員の happiness 度を上げる取り組みから、学校のブランド化や実習配置の選択制、実習調整者から各担当への権限移譲など、どんどん進化している。さらに、これらの組織改革プロセスそのものが雑誌に掲載され、全国に知ってもらえるきっかけとなった。</p>
質疑応答	<p>Q: 組織ミーティングについて興味深かった。年間どれくらいの頻度でやっているのか、</p>

	<p>そしてどれくらいから Happiness 度が向上したのか興味がある。</p> <p>A: 本校では年間5回、一回3時間で取り入れている。</p> <p>Q: 管理者以外の職員はこのミーティングについてどのように感じているのか。</p> <p>A: 最初は抵抗があったが、ミーティングが進んでいくと、自分が思っていることが言える環境になり、組織力が向上するように感じる。</p> <p>A: はじめは正直、抵抗はあった。ミーティングのテーマによって大きく変動すると感じた。また本校のように少人数の組織には効果的であると感じた。</p>
--	--

IV. 数値目標

IV-1 受験生120人以上

IV-2 国家試験全員合格

IV-3 大阪府内就職率80%以上、3市3町就職率60%以上

取り組み	結果
IV-1 受験生120人以上	結果達成できず。目標値を下げる必要あり
IV-2 国家試験全員合格	達成
IV-3 大阪府内就職率80%以上、3市3町就職率60%以上	達成
質疑 応答	<p>Q: 国家試験対策として一人の教員を設けることが効果的であると感じた。一人で学習したいと訴える学生にはどのように対応しているのか。</p> <p>A: もちろんそのような学生がいるが、登校すれば練習問題を配布するなど学生にメリットがあるように心掛けている。また他の教員からも学生へ声をかけて頂いている。</p> <p>Q: リクルートに関して、看護業界として受験生が減ってきていることについて危機感をどのようにもっているのか。</p> <p>A: 地域が学校を必要としなくなり、受験生が集まらなければ閉校を考えなければならない。本校としては、地域に必要とされ続け、地域に貢献する看護師を育てていきたい。</p> <p>Q: 最近の高校生はモラトリアムのように感じる。専門学校に入ることで将来が決まることに抵抗を持っており、高校卒業時に将来を決めていない。看護学校においても、これまでと異なるイメージ戦略が必要なのではないか。</p> <p>A: なぜ、看護師を目指したのかなどが大切である。看護師は病院だけでなく、その他にもたくさん働く場所があることも伝えていって良いのではないか。</p>

以上